

本年度の重点目標

- ・確かで発展的な学力の伸長を図る。
- ・自己実現に向けて進路に対する意識を高める。
- ・明るく活力ある学校生活が送れるよう支援する。
- ・心身ともに健全な学校生活が送れるよう支援する。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	校長は自らの教育理念をもとにして、期待される学校像の実現にリーダーシップを発揮している。	A		
	学校は特色ある教育活動をアピールするため種々の広報活動を展開している。	A		
2 学習指導	学校は「わかる授業」の実践に向けて、教科指導力の向上に努めている。	A		
	学校は生徒の自学自習の態度を養成している。	B		
3 生徒指導	生徒は登下校時に交通の規則やマナーを遵守している。	B		
	生徒は学校の規則に従い、身だしなみを整えている。	B		
4 進路指導	学校は生徒の自分さがし（生き方・在り方の模索）を支援している。	B		
	学校は計画的な進路指導により、生徒のチャレンジ精神を育てている。	B		
5 特別活動等	生徒は学園祭の取組みをとおして感動体験と高い文化レベルを追求している。	A		
	学校はすべての行事を通じて、生き生きとしたクラス・学校づくりに努めている。	B		
	学校は部活動等で生徒が高い競技力や技術を身につけることができるよう指導に努めている。	B		
6 学校図書館	学校は図書を整備と充実に取り組んでいる。	A		
	学校は生徒の読書への興味・関心や意欲を高める啓発活動に取り組んでいる。	B		
7 保健・安全指導	学校は生徒の健康管理や事故・ケガ等に適切に対応している。	A		
	学校は教育相談等を通じて、生徒の心の相談にきめ細かく取り組んでいる。	A		
8 人権教育	学校は人権講座や統一LHRなどをとおして生徒の人権意識を高めている。	B		
	教職員は人権教育に関する事業に積極的に参加し、人権意識の向上に努めている。	B		
9 環境教育	学校は生徒の環境問題に対する意識を高めている。	B		
	学校はゴミの分別や日常掃除の徹底により生徒の美化意識を高めている。	B		
10 事務・管理	学校は省エネに努めている。	B		
	教職員は保護者等の来校や電話に丁寧に対応している。	A		
11 その他 学校の取組み	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究開発をとおして学校が活性化している。	B		
	学校は土曜講座、勉強合宿、東大授業ライブ等により、生徒の自主学習習慣の確立に努めている。 （「確かな自己実現支援事業」の実施に伴って変更。）	A		
	学校はPTAと連携した活動を積極的に実施している。	B		

(注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価（自己評価）の公表（8月までの教育活動に対する中間評価）A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

学校のURL : <http://www.hikonehg-h.shiga-ec.ed.jp/>